



鷺の宮卓話

一人ひとりと握手して

研究所長 太田敬雄

今年度も私は非常勤講師としてある大学で英語の授業を担当させて貰っている。

数年前から授業の終わりには一人ひとりの学生と握手をして授業を終えるようにしている。私達日本人は握手をする時に同時にお辞儀をしてしまう傾向がある。日本式の握手として、私はそれでもかまわないと思っている。インドネシアの人達は握手を終えると、その手を軽く自分の胸に当てるし、韓国の人達は握手する手の肘のあたりに左手を当てて握手する。それぞれに、その文化らしい味が有ってなかなか良いものだ。お辞儀をしながら握手する日本的な握手もまた、日本人の味が出るのだろう。

しかし私は英語の授業ということで、学生達に英語圏の握手をするようにさせている。「握手をする時には力を込めて相手の手を握り、しっかりと相手の目を見ながら、一言言葉をかけること。」これが簡単なようで、結構難しい。しかし、出会いがしらに与える印象が、その後の人間関係を大きく左右することを考えると、このような握手も自然に出来るようになることにはそれなりの意味があると思う。

そんなことを始めてみて、発見した事がある。毎時間、授業の終わりに握手をするだけで、クラスの雰囲気が大きく変わってくるのだ。学生との距離感がなくなる。そして、授業中の学生の姿勢も変わり、積極的に発言する学生が増えてくる。私自身も学生に親しみを感じるのだが、学生も普通の授業ではなかなか見られない教師との一対一のつながりを感じるようになってきているようだ。人と人が触れ合う中で、マニュアルに沿った「効率の良い」授業では起こり得ない人としての成長があるのだと思う。

今年も一年、毎週授業を終えて教室から出ていく学生達と真剣に、親しく握手しながら、彼らの成長を見守り続けたいと思う。安心して彼らに次の時代を託すために、「頼むぞ」の思いを込めて私は彼らの手を握り続けていきたい。

クラスによっては、以前にも私の授業を受講した学生も多く、「去年の先生のお話を聞いて、卒業してから留学する事に決めました。」と握手しながら決意を語ってくれた学生。昨年私の単位を落としたばかりに卒業できず再履修を敢えて私の授業で受けに来てくれた学生。

楽しい学生達との短いけれども豊かな交流の一時に、疲れも忘れて帰路につく事が出来た。しかし、彼らの明日に相互理解に基づいた平和な人間社会の実現がかかっていると思うと、私達に与えられている仕事の重さに身を引き締められる。

総会のお知らせ

今年も総会の時期が来ました。例年のように五月最後の土曜日に総会を開催します。会員の皆様は万障お繰り合わせの上ご出席くださいますようお願いいたします。なお、会員の皆様には出欠の連絡用のはがきを同封しますので、ご欠席の方は委任状に署名・押印の上ご投函下さいますようお願いいたします。

記

- 1、 日時：2012年5月26日 午後2時～4時
- 2、 会場：まなばるXD国道18号線安中バイパス、ヤマダ電機前。からおけ「まねきねこ」の隣り。
- 3、 議題：2011年度事業報告・会計報告。
2012年度事業計画・予算・認定NPO法人格取得について。 以上

- 4、 理事・監事の皆さま：午前10時から理事会を開催します。

シリーズ「対談：私の生き方」第2回報告

シャーリー・ジュティーン先生

4月21日(土)午後2時から、まなばるXDで開催されたシャーリー・M・ジュティーン先生のお話には、研究所の最近の集まりとしては驚くほど大勢の参加者があり、充実した時を持つことが出来ました。今回の参加者には60年前に宣教師として来日され、東洋英和女学院短期大学で長く保育やキリスト教教育を教えて来られた先生のお話とあって、研究所の



温かく毅然としたお話：
先生の教師としてのお姿を垣間
見ることが出来ました。

会員諸氏に加えてキリスト教関係の出席者も多く、また大学生の参加も有り、和やかな中にも色々な立場からの中身の濃い質問・発言に豊かな時間を持つ事が出来ました。



ジュティーン先生と聴衆



～参加者の感想から～

多方面・多種類にわたって楽しい経験談。キリスト者としての聖書の御言葉。流暢な日本語での分かりやすく楽しい番組でした。

☆ ☆ ☆

日本に長く住んで、若い日から今に至るまで子供の時に神さまに約束したことにみちびかれていることをいつも確信されていたらっしゃること、心に響きました。

気取らない話し方、外国人としての存在を普通に受け取ることに細かな心の動きを感じました。

楽しいお話、また初めてのお話、ありがとうございました。

☆ ☆ ☆

先生が60有余年の歩みについて…お話下さったこと、大きな感動をもって聞かせていただきました。宣教師として若い日に召命をうけられたときのこと、東洋英和短大教師として通訳の助けを受けて教えられた5年間、そして日本語の授業で苦勞されたこと、学園紛争時代の大変なご苦勞、本当に感謝の念で一杯になりました。

☆ ☆ ☆

しっかり使命感を持ってきたお話は素晴らしかった。

8月の「多文化交流 in 釜山」のご案内と、シリーズ「対談：私の生き方」第3回のご案内を同封します。

対談、第3回は「ピカピカの1年生」弁護士、小坂景子先生です。皆様のお出でをお待ちしています。(T)

Newsletter 発行：特定非営利活動法人国際比較文化研究所

事務所：〒379-0124 群馬県安中市鷺宮3413-3

電話：027-382-5998 FAX：027-382-6393

e-mail：mtharunac@xp.wind.jp

HP：<http://www8.wind.ne.jp/mthc>

MANAPAL ブログ：<http://manapal.gunmablog.net/e80854.html>

郵便振込口座番号：00510-0-61974 名称：国際比較文化研究所